

国力低下の要因:レベル4の実証実験を収束させる。

国力 UP 策:スロー社会の構築、まずはモード切替車から

駅前商店街復活

+効果のみ

赤字ローカル線は大幅黒字へ

無人駅は 24 時間ロボット駐在

JR九州の赤字路線の三角線の赤瀬駅を題材とし、国力低下の要因：利権が絡んでいる補助金のバラマキ政策、「レベル4の実証実験」を早期に収束させ、誰でもが24時間いつでも移動ができる、スロー社会の構築を提案致します、

26年5月20日（水）夜に放送された番組：BS日テレの特番「わが家の最寄り秘境駅」は九州・三角線の赤瀬駅を日常使用する学生や、秘境駅周辺の暮らしに密着する内容でしたので、興味深く拝見しました、

そこでの暮らしは不便で大変ながら、風光明媚な風景に、ここで暮らしてみたいと思いました。

経産省自動車課には「まったく意味のない税金の無駄遣いのレベル4の実証実験を早期に収束させ、スロー社会の構築のお願い「モード切替車」の普及をお願いしておりますが、利権が絡んでおり、身動きがとれないようです。

（レベル4の実証実験はなぜ意味がないか？以下のURLをご熟読下さい。）

[https://www.garden-field.com/\\_files/ugd/954e39\\_5c4b1fc5ce5c4c2a8e42f4be4f545888.pdf](https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_5c4b1fc5ce5c4c2a8e42f4be4f545888.pdf)

現状の近接センサーを使った自動運転では、偶発性の誤信号等で、どこかで事故が必ず発生しますので、低速自動運転で事故が発生しても、全くけがをせずに、また歩行者は避けることができるので、まず低速自動運転からはじめて、AIによる総合判断が確実にできるようになったら、徐々にスピードをあげていくことが正しい自動運転化の進め方です。

モード切替車は、使わなくてもいいし、使えばとても便利で大きな付加価値を生み、また大幅なコストUPはないので、すぐに始めるべき内容で、日本車（モード切替車）がよく売れ、苦境の日本車メーカーを活況に導き、経済発展にも大きく寄与しますので、以下を熟読され、賛同されましたなら（利権が絡み、経産省も身動きが取れないので）高市総理に直接お伝え下さい。

5月21日の朝日新聞では「首相、補正財源『国債は抑制』」の見出しにて、党首討論にて、高市総理は中東情勢の混迷を考慮し、補正予算を立てる計画ながら、赤字国債は抑制する、と述べられたことを伝えています。

大賛成であり、この際に、日本凋落の要因「補助金のバラマキ政策」の抑制を考慮して欲しいと考えています。

特に「空飛ぶ車」や「自動運転のレベル4の実証実験」等は、何十年やっても前に進むことはなく、また活動として何十年も「セミナー類」しかやっていないところへは、補助金の見直しをお願いしたいと思います。

また、企業都合（培ってきた技術や設備から脱却できない）で、やれることが限られている個別企業への補助金を見直し、革新的な特許技術に対して、多

くの企業が協力し参入できる、バリウスリンク会議への移行（投資）をお願いしたいと考えています。

[https://www.garden-field.com/\\_files/ugd/954e39\\_0509b9af2f7946bd88c8fd0c911db1ea.pdf](https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_0509b9af2f7946bd88c8fd0c911db1ea.pdf)

（日産自動車様へのメール）

日産自動車様には何回もメールや電話で「意味のないレベル4の実証実験」に協力をするのをやめて、スロー社会構築＝低速自動運転社会を構築、まず、「モード切替車」から始めましょうと伝えておりますが、窓口から、「外部からの提案を受け付けることができません」の一点張りで、つながった試しがありません。

代わりに、日産自動車の工場をかかえる、栃木県、神奈川県、福岡県に声出しをしておりますが、窓口は好印象で、何も連絡がなく（進める気がなく）、経産省・国交省も窓口対応は好印象ながら、まったくやる気なしの状況が続いております。

しかしながら、大変失礼ながら、このままでは、（AI技術の立ち遅れは如何ともし難く）日産様はリストラを繰り返し、やがて消滅する可能性が高く、再度、日産様に声出しをする次第です。

[https://www.garden-field.com/\\_files/ugd/954e39\\_08c6dfd2e404443a9a6004788686fd4c.pdf](https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_08c6dfd2e404443a9a6004788686fd4c.pdf)

注：AI技術の立ち遅れについて、中国では人より速いマラソンロボットやAI24時間全自動の食堂、AI24時間稼働の自動車工場「ダーク工場」ができており、また開発・製造・技術サービスにおいて、AIが浸透しており、日本は自動車産業だけでなく、中国に各種産業で負け、多くの分野で日本市場を奪われ、縮小し続けています。（中国のAI技術の取得特許件数を100とすると日本は1）

（赤瀬駅の取り巻く環境と活性化策「モード切替車」の提案）

5月20日のTVで、熊本県赤瀬駅が紹介され、一時間に1本程度のダイヤが組まれているものの、取材の間（8時間くらいか）に、2人しか降車客がなく、1人は大阪から旅行できていた若者（19才男性）で、もう一人は地元の中学3年の女生徒でした。

女生徒の家族や家（駅から数キロ？）も紹介されており、母親が赤瀬駅まで車で迎えに来ている様子や、母親の職業や女生徒が高校ではなく、料理学校に通う予定であり、これからも赤瀬駅を利用することが紹介されていました。

もし、この家族に「モード切替車」があったなら、どんなに便利になるかを紹介します。

早朝、娘さんは低速自動運転車に乗り、1時間ほどかけて家から赤瀬駅に向かいますが、その間、大画面のマイアバター（AI）との会話で、また図解による解説で、みっちり勉強することができます。

その後モード切替車は、低速自動運転で自宅まで1時間かけて戻ります。

母親はその車を運転して、職場に向かいますが、娘の送迎がなくなったので、余裕ができます。

娘は、車載AI（マイアバター）に電話連絡をして、赤瀬駅への到着予定時間を告げると、ちょうど間に合うように、低速自動運転で迎えに行きます。

また、車載AIは母親にもラインで、娘の送迎の時間及び職場の駐車場への戻り時間を報告します。

もし、母親に飲み会や友人宅（宅飲み）に寄り、遅くなる事情が生じれば、帰宅時間に合わせて、低速自動運転で母親の居場所まで、迎えに行き、たとえ深夜になっても、母親は寝ながら帰宅することができます。

一般に深夜では、公共交通機関がなくなり、早めの帰宅が要求されますが、スロー社会では、例えば子供でも女子でも帰宅時間を気にすることはありません。（AIが搭載された低速自動運転では、交通安全と対犯罪安全とがあります。）



上記の母親を低速自動運転で迎えに行くプロセスで、娘さんはずっと低速自動運転モードで乗り続け、マイアバター（AI）と会話しながら、勉強をしたり、好きな映画を見ながら、あるいはゲームなどをしながら、またコンビニに寄り美味しいものを食べながら過ごすことができ、むしろ家で一人で過ごすよりも安全で楽しく、良いのかも知れません。